

令和7年度東京都立片倉高等学校 学校経営報告

1 校長の教育理念

本校の教育活動は、「生徒の可能性を信じ、その可能性を最大限に引き出すこと」を基本的な考え方としている。本年度の学校経営においても、この考え方を判断の軸とし、学習・生活・進路・特別活動の各場面で、生徒が安心して挑戦できる環境づくりを重視して取り組んだ。

その具体的な指針として、日常の指導においては「ABC+D」の考え方を大切にしている。A（挨拶）は人と人をつなぐ基本であり、B（勉学）は自らの可能性を広げる姿勢、C（挑戦）は失敗を恐れず一步を踏み出す態度、D（夢）は努力を継続する原動力である。これらを単なるスローガンではなく、日々の行動として定着させることを重視してきた。

また、本校では「徳を積む」ことを学校生活の根幹に据えている。日常の挨拶、清掃、言葉遣い、他者への配慮といった小さな行動の積み重ねが、生徒自身の人格形成と落ち着いた学校風土につながると考えている。あわせて、学習と部活動の両立を図る「文武不岐」の姿勢を重視し、総合的な人間力の育成を目指している。

本報告では、以上の考え方に基づいて設定した取組目標の達成状況を自己評価として整理し、次年度に向けた課題と改善策を示す。

2 当該年度の取組目標等に関する自己評価

本年度は、学校経営計画に基づき、「学習指導の充実」「進路指導の体系化」「生活指導の深化」「安全教育・防災教育の推進」「特色教育の充実」を重点目標として教育活動を行った。

学習指導においては、ICTの活用や協働的学習の導入、教員相互の授業参観等を通して授業改善を進め、生徒の授業に対する満足度は高い水準を維持した。一方で、取組が個々の実践にとどまり、組織的な共有や体系化には課題が残った。

進路指導では、進路指導部と学年団が連携し、早期からの進路意識形成と個別支援を継続した結果、進路決定率は目標を上回り、進学先の質の向上も見られた。特に造形美術コースにおいては、本校の特色を生かした指導が成果として表れた。

生活指導においては、生徒に寄り添った指導と相談体制の充実により、生徒の学校生活に対する安心感が高い評価を得た。しかし、遅刻については目標を達成できず、生活習慣の定着という点で課題が明確となった。

安全教育・人権教育については、いじめ・体罰防止、情報モラル指導を継続し、生徒の安全・安心を守る体制の維持に努めたが、防災教育の実践性については改善の余地がある。

以上を総合すると、本年度の取組目標は概ね達成したと評価できるが、生活習慣の定着、授業改善の組織化、安全教育の実践面については、次年度に向けた重点的な改善が必要である。

3 今年度の取組目標と方策に関する評価

各項目について、授業観察、授業評価アンケート、学校評価アンケート、企画調整会議・職員会議等会議の報告を集約して報告する。

評価欄については A達成、B概ね達成、Cあまり達成できなかった、「-」判断できないとしてある。

教育活動の目標と方策	重点目標と方策（数値目標）	評価
(1) 学校経営について		
①生徒の進路実現につながる教育活動を実践し、教職員一丸となって学校経営上の課題解決に取り組む。	・課題解決のための校内研修年3回以上 ・全教職員による相互授業観察、指導教諭の模範授業、他校授業参観、授業動画配信を含め一人3回以上	A 3回実施 B 概ね達成
②自律経営推進予算の適正な予算計画及び効果的な執行に努める。また、教員と経営企画室との連携強化を図り、学校運営への経営参画の充実を図る。	・一般需用費の予算執行率95%以上 ・一般需用費の支援センター利用率90%以上 ・学校徴収金の未納率0%	A 達成 99.9% B 請求が可能なものはすべて利用
③生徒にとって安全・安心な教育環境を提供するために校内美化に努めるとともに必要な施設改修等について東京都教育委員会と協議	・学校設備の不備による生徒事故0件 ・校内美化にかかわる活動年3回以上 ・防災・減災を高める活動年2回以上	A 設備事故0件 A 実施 A 実施

し、整備する。		
④業務の効率化によるライフ・ワーク・バランスを推進する。	・職員会議・委員会等を60分未満で実施 ・情報共有のため朝の打合せ実施	A 達成 A 達成
⑤教育課程と本校のグランドデザインを基に、スクールミッションとスクールポリシーに沿った教育活動に取り組む。	・生徒理解や授業研究、入試研修を含む校内研修を年3回以上し、教育活動の検証・改善の推進	A 達成
⑥サービス事故を防止するために校内研修等の事故防止に向けた取組を確実に行う。	・サービス事故防止研修年3回以上実施 ・校内体罰防止調査の実施 ・シュレッターはテスト返却後まで使用しない	A 達成(実施)
(2) 学習指導・進路指導について		
①教科会を中心とした教科マネジメントを確立させるとともに生徒の希望進路に必要な学力を確実に定着させる主体的で深い学びを追求した高品質の授業を提供する。 ②ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりを推進。	・生徒の授業満足度80%以上 ・生徒の主体的な対話的な学習を取り入れた授業に取り組む教員 ・同一学年同一教科の定期考査共通化 ・ICT等を活用した授業実践に取り組む、1台端末の利活用、定期考査採点分析システムの利用を促進。	① B 94% B 一部未達成 B 一部教科のみ未達成 B 一部未達成 ② B 92% 一部未達成
②グローバル地域性を考慮しながら地球規模の視点で考え、行動できる未来に貢献する人材を育成。特に英語教育の学習到達度目標として検定試験の活用を推進する。	・一学年、二学年全生徒に英語検定を実施	A 達成
③3年間を見通し、進路指導部・各学年担任団を中心とした組織的な連携のもと、キャリア教育に沿った系統的な進路指導を推進。	・生徒対象進路説明会年3回以上 ・保護者対象進路説明会年1回以上 ・進路決定率95%	A 達成 A 各学年で実施 B 98%
(3) 生活指導について		
①生徒に寄り添い向き合う指導を通じて生徒の自立的な生活態度の育成を図る。	・学校は生徒の相談を丁寧に応じていると考える生徒の肯定評価割合80%以上	A 93%
②学校行事や各種集会・HR活動などあらゆる場面を活用して、生徒の規則正しい生活習慣や規範意識の育成を図り、社会人としての基本的なルールやマナーを身に付け実践できる生徒の育成を図る。	・自分のためを思って指導してくれていると考える生徒の肯定的評価割合80%以上 ・全生徒年間遅刻回数六千回以下 ・チャイム着席の徹底	A 97% C 6773回 A 達成
③いじめはどの学校にも起こり得るものと全教職員が共通の認識をもち、人権尊重精神で指導にあたる。支援が必要とされる生徒には状況に応じた対応を迅速かつ組織的に行う。	・生徒対象のいじめ調査を年3回以上実施 ・生徒対象の体罰調査の実施	A 実施した A 実施した
(4) 心身の健康について		
①定期健康診断やスポーツテストの結果分析を活用するとともに、栄養・運動・休養の三原則を基に、生徒の健康の保持増進と体力向上を図る。	・保健便りを年3回以上発行 ・保健研修会を1回以上実施 ・特別支援、教育相談に関する会議を年3回以上開催	A 達成 A 実施した A 実施した
②スクールカウンセラーによる第一学年全員面接等の組織的な教育	・スクールカウンセラーによる新入生全員面接を実施	A 達成

相談支援体制を強化し、いじめの未然防止や体罰等の根絶を図るとともに、若者の自殺防止のための相談支援体制を日常的・組織的に強化し早期発見・早期対応を図る。	・いじめ防止及び自殺防止に向けた学校の取組みに対する生徒の肯定的評価80%以上	A 93%
(5) 特別活動について		
①特別活動や部活動などを生徒が主体的に協働する場となるように努め、情操を豊かにするとともに生徒に望ましい帰属意識をもたせ、自尊感情の高揚を図る。	・体育祭、文化祭に積極的に参加したと答えた割合90%以上 ・生徒会主体行事年2回以上実施 ・各学年生徒主体の行事年1回以上実施	A 96% A 実施 A 実施 球技大会等
②行事や部活動等通して、目標に向い準備し、練習するといった一連の実践により生徒の総合的な人間力の育成を図る。	・1年生加入率75%以上 ・対外大会参加部活動率100%	B 71.0% A 他校との合同チームの参加を含む
③文化的活動や体育活動を通し地域等貢献し社会性の涵養を図る。	・地域・学校行事の相互参加 年2回以上	A 達成
(6) 造形美術コースについて		
①造形美術コース運営委員会の運営を推進し、全教職員の連携をより一層深め、生徒一人ひとりの創造的な能力の向上を図る。	・運営委員会の開催を年3回以上 ・郊外での展示会開催年3回以上	B 1回実施 A 達成
②生徒・保護者のニーズを把握し、造形美術コース独自の3年間の進路実現計画に沿って、希望進路実現に尽力する。	・各学年の教科担当者を含めた拡大学年會を年2回以上実施 ・美術系大学希望者進路決定率80%以上	A 実施 C 74%
③造形美術コースの教育活動を近隣中学校や地域社会に向けて広く発信することで、入学希望者を発掘する。	・入学希望者向け説明会を年10回以上実施 ・中学生デッサン教室参加者年間100名以上	A 10回(外部会場) A 達成 延べ203人 造形美術コースの紹介に貢献した。
(7) 広報活動について		
①授業や学校行事の公開、学校説明会・学校見学会の充実をはかるとともに、デジタルコンテンツを積極的に活用し、中学生やその保護者などに情報発信力を高め、本校への進学希望者増を目指す。	・学校のウェブページ更新回数500回以上 ・普通科及び造形美術コースの入試倍率推薦3.0倍以上 学カ一次1.2倍以上	A 達成 604回 A 推薦 普通 2.9倍 コース 2.0倍 B 学力 普通 1.23倍 コース 0.66倍
②総務部を中心とした全教職員による募集対策のための広報活動、中学校訪問や地域ボランティア活動などの広報活動により本校の教育活動への理解を深めてもらう。	・学校見学会、説明会の開催年5回以上 ・学校見学会、説明会に生徒会生徒や部活動生徒の参加 ・八王子市内全中学校への学校訪問実施	A 達成 A 達成 B 概ね達成
(8) 組織体制の充実について		
①企画調整会議の機能を強化し、学校経営方針の理解浸透を図るとともに各分掌からの意見聴取などにより全教職員の経営参画を推進する。	・担当者間の案件の事前相談や打ち合わせなどを行うことにより企画調整会議効率化の推進 ・各分掌主任による企画調整会議内容の正確な伝達	A 達成 A 達成
②教科主任を中心として教科会を	・教育課程委員会等を年3回以上実施し、	A 達成

充実させ、教科間の連携を一層推進する。	完成したカリキュラム等が生徒に対応できているか等の点検見直しを行う。	
③計画的な仕事の進行管理により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりの適切なライフ・ワーク・バランスの実現を図る。	・全教職員年休取得15日以上取得、夏季休暇全員が付与された日数を取得 ・教職員の勤務時間外校内滞在時間の前年比-10分	B 一部未達成 B 未達成
④生徒が安心して教育活動に取り組めるよう、担任や部活動顧問、教科担当だけでなく全教職員が連携して生徒指導にあたる。	・登校時挨拶指導週間を年3回実施 ・部活動顧問の複数配置による顧問同士の連携指導を実施 ・生徒情報交換として拡大学年会を年3回以上実施	A 達成 A 達成 A 達成

4 翌年度以降の課題と改善策

本年度の自己評価を踏まえ、次年度に向けて特に改善が必要である課題は、「生活習慣の定着」「授業改善の組織化」「安全教育・防災教育の実践性」「造形美術コースのさらなる充実」の4点である。

第一に、生活習慣の定着である。生徒の学校生活に対する安心感は高まりつつある一方、遅刻の改善には至らなかった。次年度は、学年団・家庭・関係職員が連携し、個別の状況に応じた声かけや生活調整を行うとともに、問題が起こってから対応するのではなく、予防的視点に立った生活指導を継続する。

また、校内で盗難事案が複数発生したことを受け、警察署及びスクールサポーターと連携し、校内巡回や防犯指導を実施した。併せて施錠徹底や巡回強化、生徒への防犯意識の指導を行い、防犯体制の見直しを進めたが、引き続き改善が必要である。

第二に、授業改善の組織化である。個々の教員による工夫や実践は進んでいるが、それらを学校全体で共有し、次の改善につなげる仕組みは十分とは言えない。次年度は、教科会や校内研修の在り方を見直し、授業改善を段階的・継続的に進める体制を整える。

第三に、安全教育・防災教育の実践性である。これまで講話や説明中心で行ってきた指導を見直し、地震や風水害、下校時の災害など具体的な場面を想定した実践的な指導へと改善する。また、防犯面についても関係機関と連携し、生徒自身の防犯意識を高める指導を継続する。

第四に、造形美術コースのさらなる充実である。進路実績という出口成果は一定の成果を上げているものの、一次募集における志願者確保には課題が残った。次年度は、教育内容や3年間の学習の流れを分かりやすく整理し、教育活動の見える化と広報の充実を進めるとともに、カリキュラムの検証と改善を行う。

以上の課題を踏まえ、次年度は取組の重点化を図り、生徒一人ひとりが安心して学び、挑戦し、成長できる学校づくりを継続していく。